

上福田の教え歌

一つとや 人の鑑と歌わねる
 孝女おふとは上三草
 二つとや 古き歴史は悲池
 長手をばさみ下三草
 三つとや 見よや川の落合に
 繁りて立てる木梨村
 四つとや 世にいづれある木梨宮
 さかさま川原の藤田村
 五つとや 石に名高き山口の
 からくり谷は昭和池
 六つとや 馬の背中に似たとい
 細き馬を馬瀬村
 七つとや 永富町の牧野村
 豊かにたたる大池よ
 八つとや 巨神様は吉馬村
 村境の郡境い
 九つとや 二つに八村集りて
 豊かにたたる上福田
 十つとや 遠き昔は城の跡三草山
 お城の跡は三草校

出典：昭和48年発行
 社町立三草小学校「創立百年誌」より



発行者
 県民交流広場事業
三草ふれあい広場
 兵庫県加東市上三草969
<http://www.i-mikusa.com>

わたしの村の
 自慢マップ

上福田地区は、加東市の中央北部に位置し、東部に三草山を望む緑豊かな地域です。当地は、京へ通じる街道の要衝として、古くから発展してきました。源平の三草山合戦や三草藩陣屋跡など歴史を今日に伝える史跡や物語が数多く残され、三草川沿いの松の原木は、奉勤交代の江戸の昔を物語っています。地域の歴史遺産や自然を大切に、私たちの手で次代に伝えていきたいものです。



上三草
 三草川の上流域にあるところから村名が生まれた。村内を縦貫する丹波道(京街道)は、古代後期から中世にかけて、姫路、高砂から丹波、京都を結ぶ幹線であったが、近世に入って礼所廻りの巡礼道に変わった。

サンコーボラス三草
 「サンコーボラス三草」は平成五年に雇用促進住宅として建設された。二棟、戸数六十戸。緑に囲まれた高台にあり、住民は若い世代が多い。三草小学校が近くあり、子どもの教育環境や自然に恵まれた宿舎である。

下三草
 三草川の下流沿岸に位置していることから下三草と称するようになった。当地も源平の古戦場であり、今は農地になっているが悲池にも平家没落の物語が伝えられている。

木梨
 加古川の支流千鳥川(久米川)の中流域にあり、梨の原木があったことによる地名と見られている。古代末期から中世を通じての丹波道(京街道)の宿場の一つであった。

藤田
 千鳥川(久米川)の中流域で、昔この地にあった多田池に住む大蛇を退治した藤田三郎大夫にちなむと言われている。

山口
 三草川流域に位置し、丹波道(京街道)が平野部から山地に入る要衝であった。そのままだ。

馬瀬
 三草川流域。周囲の山々が険阻で、地形が馬の背に似ているので、昔は「馬背村」と書かれた。丹波道(京街道)が平野部に入る要衝。

三草
 昔、都に疫病がはやった時、げんじょうこ、せんぶり、かんぞうの三葉草を都に持参、献上し、病を癒めたという伝説がある。これら三種の葉草の生育する地として三草と言われた。昭和五年(一九七〇)上三草に合併した。

やしろ台
 昭和四五年(一九七〇)頃、別荘地として山林開発された分譲地。「自然と暮らして共生するまちづくり」と謳っており、地域に残っている自然環境を大切に育んでいる。

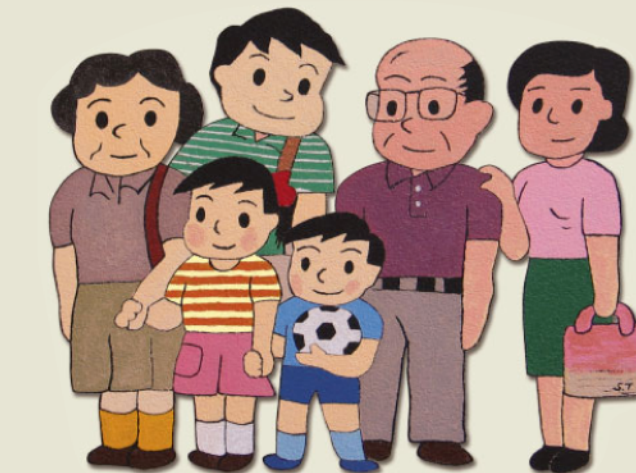
永富牧野吉馬
 加古川中流の東方。明治四年(一八七二)吉馬村と牧野村が合併。永久に富み栄える村であるようにと命名された。昭和六〇年(一九八五)再び牧野と吉馬となる。

牧野
 源三位頼政公が鶴退治により保延六年(一一四〇)に牧野の地を賜り、牧場を設けたことにより名付けられたと伝えられている。この土地はその昔安倍晴明が討じたため牛馬を飼うのに適した土地であったとい。

吉馬
 古馬を開墾した高瀬吉兵衛の名にちなみ、領主浅野長直が村名を吉馬村とつけるよう命じた。また、開墾以前、この土地は源三位頼政公の放牧場があった。名馬にちなんで吉馬としたとい説もある。

県民交流広場事業
三草ふれあい広場

わたしの村の自慢マップ



このマップは、わたしたちの村自慢として、上福田地域の史跡や自然景観を多くの方々に協力いただき、まとめたものです。このマップを通して、豊かな自然と幾多の先人の努力により育まれた郷土の歴史に思いを馳せ、郷土の誇りを再発見することができました。三草ふれあい広場では、今後、このマップに基づき村々の史跡や自然に触れるワクワク探検を計画しています。このマップを永く手元に置いて「ふるさと発見」に活用いただき、郷土愛を深められるよう願って止みません。

平成二十一年十二月
 三草ふれあい広場
 会長 上月 寛三良

1 中材家石造五輪塔
上三草



三草橋北の道路沿いにあり、凝灰岩造りで高さ一メートル、五輪の形状や梵字の彫法などから造られたのは鎌倉中期をくだらないと思われまふ。兵庫県の文化財に指定されています。

2 馬頭観世音
上三草



三草川の川辺に馬頭観世音の碑があります。三草の合戦で戦死した馬が、三草藩の馬を甲つたのか定かではありませんが、暴れ馬が静まるように拝むと、馬が落ち着いたとも言われています。

3 孝女ふさの碑
上三草



修身の教科書にも取り上げられた孝行娘「ふさ」(一七六一一年生まれ)の顕彰碑として、大正十一年(一九二二)に建てられました。碑文は、蘇峰徳富猪一郎の筆になるものです。上三草と下三草の境界の道路沿いにあります。

4 上三草地蔵
上三草



俗にイボをとってくださるといふことで、イボ地蔵と呼ばれています。現在も不思議な利益があるようで、お参りされた人による供花が絶えません。昔は、現在の三草保育園駐車場の一角にありましたが、今は、延命寺境内に移っています。

5 三草藩武家屋敷
上三草



三草藩陣屋は、寛保年(七四四)に入部した丹羽氏譜代二万石により、三草の地に築造。維新まで七代二〇有年間に続きました。本陣跡は、やしろ国際学習塾の敷地となり、付近には武家屋敷等が残っています。白い土塀をめぐらした武家屋敷のうち尾崎家が修復され、土・祝日に般公開されています。

6 五輪塔(華師堂)
下三草



永正一八年(一五二一)に集落や丹波道を通ずる人々の安寧安全などを祈願して建てられたようです。もとの建立場所は不明ですが、近年、下三草の集落を東に望む山麓に移されています。

7 諏訪八幡神社
下三草



諏訪八幡神社は下三草の氏神で、明治三年(一八七〇)の上種札が納められています。境内には石段や燈籠、手水鉢などの石製品があります。石鳥居は昭和二年(一九二七)建立され、傍には文化一〇年(一八三三)の石段が移設されています。竜山石の石段には文政三年(一八二〇)の銘があります。

8 北山庵寺
木梨



北山庵寺には、地藏堂、阿弥陀堂、大日堂があり、付属建物として庵主の居所がありますが、創建時期は不詳。毎月、地藏講と称して高齢者が食べ物を持ち寄り、読経後、慰安する風習があります。大日堂は、毎年一月に牛馬の安全を祈願し、餅まき等を行っています。

9 逆川
藤田



千鳥川が、藤田市内で写真のようになり、流れている部分の名称です。大昔に大蛇が暴れ洪水になった時、住民が神様にお祈りする、この洪水が治まったと伝えられています。

10 たぎのかた
藤田



千鳥川に横たわる落差約二メートルの藤田の滝。この落差を利用して、用水を引き込み稲作が行われています。たぎのかたへの道中の千鳥川沿いには、桜並木が延々と続き、地元では桜の通り抜けの名所としても親しまれています。

11 木梨神社
藤田



平安時代の神明帳にその名が見られ、この地域では、佐保神社と共に最も古い神社の一つです。現在は、藤田・木梨・下三草の三カ村の氏神として、人々から信仰されています。

12 小山寺
藤田



県道横の小高い丘にあり、春は木蓮や桜の花が咲き乱れ花園となります。近隣からも花見の客が訪れています。境内では、ゲートボールが行われ、地域の高齢者の憩いの場となっています。八月の地藏盆には、地域あげての盆踊りが開催されます。

13 稲荷神社
藤田



藤田のお稲荷さんと親しまれ、地元だけでなく近隣からの参拝者もあります。お稲荷さんへは、藤田の名所「逆川」に架かる小橋を渡り、木漏れ日が差し込む竹林の参道を通り抜けて参拝します。森林浴を兼ねた参拝をお勧めします。

14 墓所のお堂と宝篋印塔
山口



墓所にはお堂がありましたが、老朽化のため平成一七年(二〇〇五)に建替えられました。旧堂は清水寺への参拝や伊勢参りの時に休んだ所です。観音さま、大師さんが祀られています。またお堂の外に宝篋印塔は享保五庚子年(一七二〇)と刻まれています。

15 昭和池
山口



昭和八年(一九三三)に完成した土堤防としては、県下一二を競う大きなため池です。樋門近くには、記念碑が建立されています。三草山を仰ぐ眺望、三草山からの眺めも共に素晴らしいです。また、池の奥には三草山合戦の時の馬の足跡と言いつたえられている岩場があります。

16 弁慶石
馬瀬



壽永年間(一一八二〜一一八三)、武蔵坊弁慶が、御獄山清水寺に参詣した折、その通り道、馬瀬で石に薙刀あるいは薙刀で突いて直径一〇センチメートルほどの穴をあけたといわれています。弁慶石は国道三七二号線を山口から馬瀬方面に行く途中の右側の路傍にあります。

17 住吉神社
牧野



源頼政公が宮中において鶴を退治し、主上の病氣全快の賞として給った土地(牧野)に祠を造営して守護神とした伝説があります。今も能舞台や鐘撞堂跡が残され、神仏習合であったことが窺えます。現在、牧野、吉馬の二カ村の氏神です。

18 秋祭り屋台
牧野



住吉神社の秋祭り(一〇月第一日曜日)に村内を練り廻り、五穀豊穡、地域の発展、家内安全を祈願しています。村外に出ている人も帰郷し、屋台練り出しを通して親交を深めています。屋台は、山型布田屋台で平成一年(一九九九)に古い屋台の一部を使い新調しました。

19 笠石さん(笠地蔵)
吉馬



田の中に立っている「吉馬の笠石さん」は、終戦後もなくなり、恵みの雨の時は笠を被せて祈願し、雨の降らなくても祈願し、不思議な不降雨です。普段は笠を支える石のみを見ることができまふ。

20 阿弥陀堂と北向地蔵
吉馬



集落の中央にある阿弥陀堂には、高瀬吉兵衛翁の記念碑があり、吉馬の開発が刻まれています。境内には北向地蔵が祀られています。毎月二日には村人がお参りし、お堂はふれあいの場となっています。九月の彼岸には念仏講の高齢者と子供たちによる大数珠練りが行われています。

21 厄除八幡宮
吉馬



古代より郡境の守護神として祭祀された八幡宮を厄除八幡宮としています。大祭は毎年一月一日に行われ、遠方からも多くの参拝者があります。

22 数曾寺池周辺
山口・やしろ台



数曾寺池の守護神弁財天が西側に、東側の山には毘沙門天が祀られています。余水吐から落ち下す滝は、落差一〇メートル、巾五メートルで、満水時大雨が降ると、その景観、爆音活力があります。澄んだ青い水の数曾寺池・小仁袋池は、散歩コースの池畔と共に憩いの場になっています。

23 廻り池
やしろ台



やしろ台のすぐ西側にある廻り池は、エマルドグリーンの水をたたえた池が二つ連なっています。池畔からの眺めは東に別荘地、東南方向に三草山、北側の岩肌、山容はミニアルプス、尾根筋の登山も楽しめます。

24 ミツバツツジの群生
やしろ台



やしろ台は、四月初旬には紅紫色のミツバツツジの群生が、六月にはサユリ等の山野草が咲き、季節毎に目を惹きつけてくれます。また、メジロ、ウグイス、ジョウビタキ等三〇種以上の野鳥が見られ、自然豊かなところ

やしろ台



郷土の人物伝

木梨 月城
日本画家。明治二年(一八八八)木梨に生まれた。一八歳で竹内栖鳳の門下生となり、初期文展に入選。風景、動物画に定評があり、神戸須磨に居を構え、果下の画会の創設、後進の育成など、美術文化の普及向上に努めた。

木梨 三木翠山
日本画家。明治一六年(一八八三)福田村屋敷に生まれ、幼くして、門下生となり、初期文展に入選。人物を対象とし、特に女性を画題とした作品に優れた画家として評価が高い。

木梨 大熊土次郎
上福田村初代村長。安政元年(一八五四)木梨に生まれた。生来の才能に恵まれ、篠山の鳳凰塾、大阪の藤沢南学塾に学び、ともに塾長となった。明治二年(一八八九)市町村制が実施されたとき、初代村長となり、その後三〇有余年、村自治の円滑な発展に身を挺して尽くした。

木梨 村上代三郎
野に埋もれた近世蘭学の英才。村土木洲と号す。文政六年(一八二二)木梨に生まれた。一八歳で大阪の緒方洪庵の道塾に入門し、蘭学を学んだ。嘉永二年(一八四九)に江戸に出て蘭法医学を学び、後、伊豆に立ち寄り郷里に帰ったが、四年後には再び伊豆、江戸に出て幕府講武所で西洋兵学を教えた。療養のため帰郷してからは、私塾において蘭書を講じ、西洋兵学を教え、医を業としていたが、明治の政界において活躍した江藤新平をはじめ多くの藩士が名声を慕い、教えを請うた。また、明治政府の要職にあった伊藤博文が当地を訪ね、新政府への出仕を勧めた。

木梨 上福村初代村長
安政元年(一八五四)木梨に生まれた。生来の才能に恵まれ、篠山の鳳凰塾、大阪の藤沢南学塾に学び、ともに塾長となった。明治二年(一八八九)市町村制が実施されたとき、初代村長となり、その後三〇有余年、村自治の円滑な発展に身を挺して尽くした。

木梨 福田村屋敷に生まれた幼くして、門下生となり、初期文展に入選。風景、動物画に定評があり、神戸須磨に居を構え、果下の画会の創設、後進の育成など、美術文化の普及向上に努めた。

吉馬 高瀬 藤次郎
初代衆議院議員。天保九年(一八三八)高瀬吉兵衛の七代後の吉兵衛貞幹の二男として生まれた。早くから自由民権運動に身を投じて地方自治の充実を唱え、明治二年(一八七九)に代議院議員として選出され、二年(一八九〇)まで衆議に二年の第二回衆議院議員選挙に立憲自由党から立候補して当選し、再選後二年(一八九三)の解散による引退まで国政で加東郡社村長に就任した。

吉馬 高瀬 吉兵衛
「吉馬」の名前の由来となった人物。元和五年(一六一九)新町に生まれた。当時、一面原野であった未富北部(吉馬)の土地が肥沃であるのを知り、藩主浅野長直の許可を得て、承応三年(一六五四)開墾に着手した。溜池を作ることで、次々と田がひらけ移住者が増え、寛文一一年(一六七二)の検地の結果、田畑半高一五〇石に及んだ記録が残されている。領主は、この村に吉兵衛の名にちなんで、村名を吉馬村とつけるように命じたといわれている。

藤田 藤田三郎太夫
「藤田」の名前の由来となった人物。水不足と洪水に悩まされていたその昔、「多田の池」が作られた。何年後も、西国巡礼者が若く、女性から預かった文箱から一匹の蛇が池に沈み、大蛇となり鎮守の神様にお参りする人々を食むようになった。その時、弓の名人であった藤田三郎太夫が大蛇を退治した。

吉馬 高瀬 藤次郎
初代衆議院議員。天保九年(一八三八)高瀬吉兵衛の七代後の吉兵衛貞幹の二男として生まれた。早くから自由民権運動に身を投じて地方自治の充実を唱え、明治二年(一八七九)に代議院議員として選出され、二年(一八九〇)まで衆議に二年の第二回衆議院議員選挙に立憲自由党から立候補して当選し、再選後二年(一八九三)の解散による引退まで国政で加東郡社村長に就任した。